

背景・概要

- 平成20年に開催したeクリエイション研究会の取りまとめの下、公共情報や、街や地域の屋内外に関連付けられるサービス、イベント等の情報を、電波、赤外線、可視光通信、位置測位、センサー、又は画像解析などの新たな情報技術を活用して、収集・蓄積・発信するとともに、個人の行動にかかわる様々な情報を掛け合わせることで、利用者に新たな発見や感動を導き出すことのできる新たな街・地域(空間)を創出することを目的とした「e空間プロジェクト」において位置情報サービスの具体的施策を推進。

具体的施策

○平成22年度当初予算において、位置情報サービス基盤開発およびモデルサービス実証を実施。

- ①AR(Augmented Reality: 拡張現実)による現実とネットの融合を推進
・渋谷を実証フィールドとして、ARマーカーを活用した実証事業を実施。

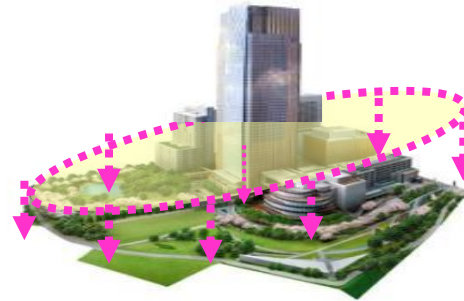
- ②情報への位置情報付加推進
・長崎、高知を実証フィールドとして、TVコンテンツと位置情報を連動させた実証事業を実施。

- ③地域情報の収集・蓄積・発信
・福岡を実証フィールドとして、地域の販売促進情報を共有し、複数のメディアを使い、特定の場所で配信する実証事業を実施。



建物や店舗を付加価値とする街から

e空間コンセプト



情報空間による付加価値のある街へ
⇒「今だけ、ここだけ、あなただけ」の
サービスの実現